

「山笑う」

この絵は昨年4月初旬に車で伊豆の国市を訪れ、伊豆中央道トンネル入り口手前で一時休憩した際に目にした風景を描いたものです。さほど高くはないものの形の整った山(標高191m)が、まるで“春を纏っている”かのように感じられました。

この作品に取りかかったのは昨年末のことです。この風景をモチーフに選ぶにあたり、少なからず戸惑いもありました。というのも、山の美しさは一本一本の木々がそれぞれに個性を主張しながら全体を形づくっており、その魅力を伝えるには、可能な限り忠実に描写するしかないと考えたからです。必然的に根気のいる制作になることは明らかでした。

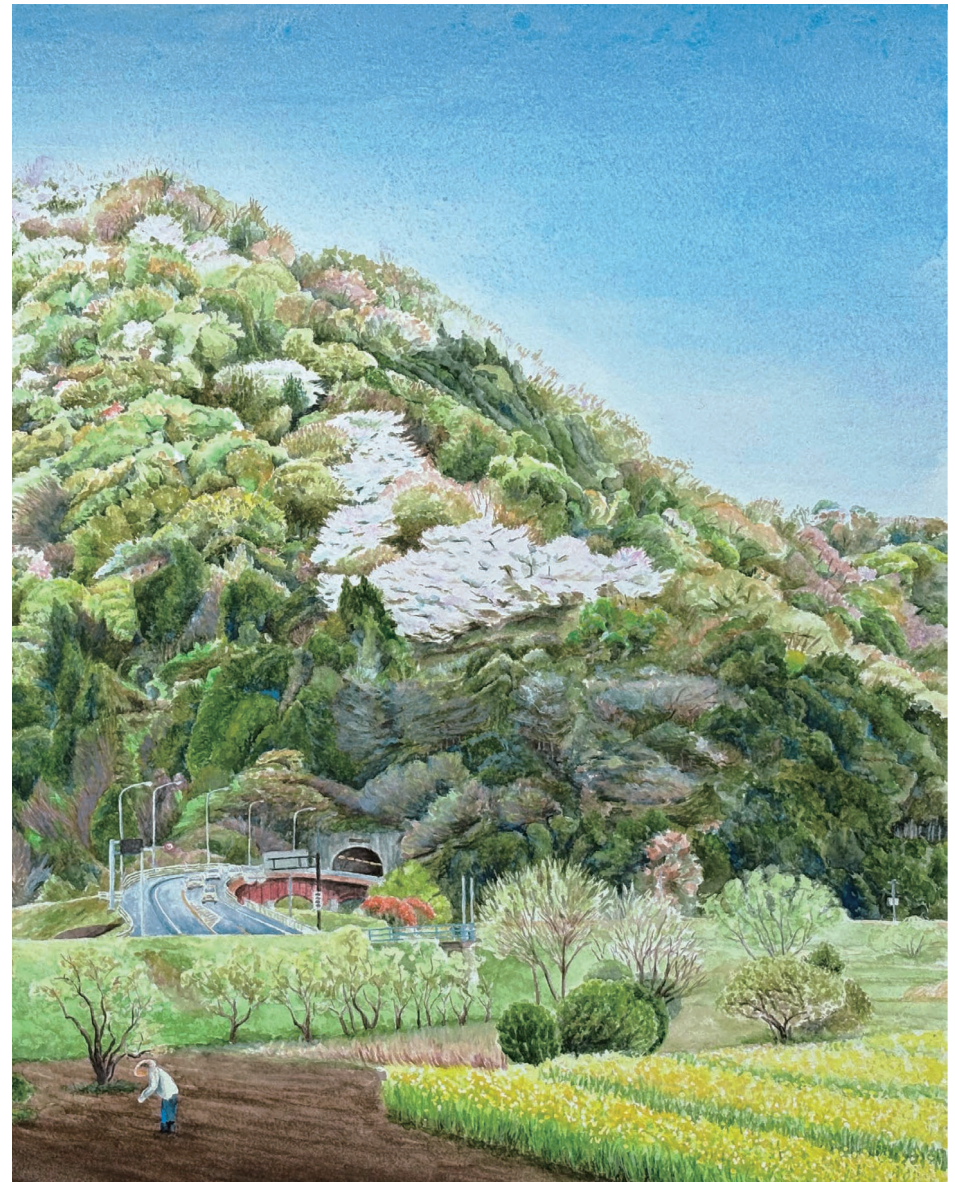
制作を進める中でこの山の情報を調べ、驚きました。この山は日守山(正式には^{おおぞれやま}大風山)といい、海底火山群であった伊豆半島が約100-60万年前に本州に衝突・隆起して生まれた山々の1つだということを知ったのです。この日守山は伊豆半島が本州に衝突する最前線に位置していました。最前線の山々の連なりを「沼津アルプス(香貫山から大平山)」、その東奥にある日守山などは「奥沼津アルプス」と称しているようです。

画面手前の広場は狩野川の河川敷です。トンネルの前を、左(東)から右に狩野川が流れています。日本の太平洋側の河川の多くは南に流れていますが、この川は半島の形成史を反映し、全体として南から北に流れています。日守山より奥(南)側の地域は、昭和の中期まで水害に悩まされていたとも聞きます。

日守山の春風景には俳句の季語「山笑う」が相応しいのではないかと考え、本作のタイトルとしました。作品が題負けしないかとの思いもありましたが……。



菊岡 保人



Size: 530×455mm (F10)